

●新刊のご案内

# 〈原作〉の記号学 日本文芸の映画的次元 [2月下旬刊]

中村三春 [北海道大学大学院文学研究科教授 / 日本近代文学・比較文学・表象文化論] = 著

◎四六判上製 / 288 頁 / 本体 3200 円 / ISBN978-4-909544-01-8 C0074

## すべての創作物は第二次テキストである

文学作品を原作とし、その変異としてあるはずの文芸映画が、にもかかわらず、かけがえのない固有性を帯びるのはなぜか。

『雪国』『羅生門』『浮雲』『夫婦善哉』『雨月物語』など戦後日本映画黄金期の名作から、『心中天網島』などの前衛作、『神の子どもたちはみな踊る』『薬指の標本』といった現代映画までを仔細に分析し、オリジナリティという観念に揺さぶりをかける。

### ●主要目次

序説 文芸の様式と映画の特性——豊田四郎監督『雪国』

#### I 〈原作現象〉の諸相

- 第一章 〈原作〉の記号学——『羅生門』『浮雲』『夫婦善哉』など
- 第二章 《複数原作》と《遡及原作》——溝口健二監督『雨月物語』
- 第三章 古典の近代化の問題——溝口健二監督『近松物語』
- 第四章 〈原作〉には刺がある——木下恵介監督『楯山節考』など

#### II 展開される〈原作〉

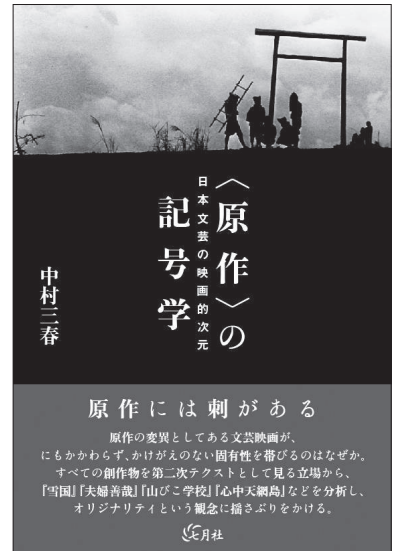
- 第五章 意想外なものの権利  
——今井正監督の文芸映画『山びこ学校』と『夜の鼓』
- 第六章 反転する〈リアリズム〉——豊田四郎監督『或る女』
- 第七章 擬古典化と前衛性——篠田正浩監督『心中天網島』
- 第八章 混血する表象——トニー・オウ監督『南京の基督』

展望 第二次テキスト理論の国際的射程

——映画『神の子どもたちはみな踊る』と『薬指の標本』

### ●版元より、書店の皆様へ

七月社の刊行第二弾です。「文学理論の旗手」といわれる北海道大学の中村三春氏の、初の映画研究単著です。単に文学→映画という一方向的な影響ではなく、複雑な相関をなす映画と文学の関係性を鋭く分析し、映画の見え方を変えてしまう一冊です。装丁は ATG 不朽の名作『心中天網島』の写真をお借りしました！



株式会社 七月社

☎182-0015 東京都調布市八雲台 2-24-6 電話 / FAX : 042-455-1385

帳合・番線 注文数 冊	発行：七月社 電話：042-455-1385
	中村三春=著 <b>〈原作〉の記号学</b> 日本文芸の映画的次元 四六判上製 / 288 頁 / 本体 3200 円 / ISBN978-4-909544-01-8 C0074

ご注文は JRC へ / FAX 03-3294-2177

\* 返品条件付き注文扱い  
\* JRC 経由ですべての取次への出荷が可能です